

本町上町会

上宿の存在は古く、徳川幕府により中仙道第一の宿場町として設置された板橋宿は、上宿、仲宿、平尾宿の三つの宿場から成り立ち、天保年間（1830年代）の時点では、本陣は仲宿に一軒、脇本陣は各宿場の名手が兼帯し、旅籠は五十四軒ほど存在したと言われています。

宿場名や区名の由来となっている『板橋』は、石神井川に架かる橋であり、江戸時代は太鼓橋でした。

その後昭和7年にコンクリート製となり、さらに昭和47年新装となった『板橋』は、北は環状七号線、西側は中仙道、中央を旧中仙道が通ります。

板橋十景にも選ばれた桜の名所、まさに、そのお膝元が上町です。昭和29年板橋十丁目上町自治会として発足、昭和31年地番変更により、本町上町会として改称し現在に至っております。

創立六十周年をむかえるにあたり、今後も先輩諸氏が築いてきた上町会の歴史と伝統を心に刻み会員相互の『絆』と『輪』の精神を重んじ、安全で住み良い町づくりに邁進する覚悟であります。

※令和4年2月28日に発行した「板橋区町会連合会 創立60周年記念誌」の紹介文を掲載しています



富士見まつりへ模擬店出店